別紙１

JARI　ITS セミナー

自動車電子／電気システムに係わる 機能安全規格（ISO26262）の動向

＝2010 年 12 月 13 日　日本自動車会館 1 階 くるまプラザ＝

(1)　開会にあたって　（13：30～13：50）

(財)日本自動車研究所 ITS 研究部部長　森田　康裕

本セミナー開催の経緯、自動車開発における機能安全規格への課題・対応についてご紹介します。

(2)　ISO 26262 規格がもたらすもの　ーインパクト、メリット、課題ー　（13：50～14：30）

講師：日産自動車株式会社所電子技術開発本部 電子信頼性技術開発部
統合システムグループ　主査　　山下　修平　殿

いよいよ来年夏の規格成立が確実となったことを受けて、自動車業界内、自動車会社内の準備活動も、活発でより具体的になってきました。しかし規格要件の中には欧州型アプローチといえるものも多く、日々の開発業務へのインパクトも小さくありません。今回の講演では規格のいくつかの特徴的要件とその影響を開発現場での取り組み状況を交えて考察します。

(3)　ISO26262 とサプライヤーにとっての重要なポイント　（14：30～15：10）

講師：ボッシュ株式会社　テクニカルセンター 先端技術開発部
電気＆電子系システム統合化推進Gr.　セクションマネージャー　越智　純一　殿

ISO26262 規格が来年夏に正式発行される見込みとなったことを受けて、自動車部品のグローバルサプライヤーとしてのボッシュの立場から、この規格の導入において重要と思われる点の理解と対応について説明します。

《休　　憩》（15：10～15：30）

(4)　組織改革ツールとしての機能安全規格の活用　（15：30～16：10）

講師：日本電気株式会社　コンサルティング事業部
ソフトウェアプロセスグループ マネージャー
シニアビジネスコンサルタント　　太田　孝史　殿

機能安全規格の是非については様々な意見がありますが、規格を適切に活用することによって、競争力のある組織、プロセスに変革することが可能です。本講演では、当社のコンサルティング事例を踏まえながら、取り組みの意義を中心に、規格を概説します。

(5)　車載ソフトウエア開発の現状と今後　（16：10～16：50）

講師：dSPACE　Japan株式会社　　代表取締役社長　　有馬　仁志　殿

車載システムの開発では、開発手法およびツールの活用が必須となっています。本講演では、最新のモデルベース開発の実際と機能安全規格の対応について説明します。

閉　会　（～17：00）